

## 平成 21 年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A /	取組 名称	地域文化遺産を活用するための調査・記録・情報化の研究 －八幡市域を中心とした文化情報学研究の確立－
研究代表者： 文学部歴史学科 准教授 東 昇			
研究担当者： 京都府立大学（渡辺信一郎、菱田哲郎、上島享、小林啓治、井上直樹、上杉和央） 外部分担者・協力者（水本邦彦氏、伊野近富氏、竹中友里代氏、西中道氏、塚本章宏氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 八幡市教育委員会、八幡市ふるさと学習館			
<b>【研究活動の要約】</b>			
八幡市域は石清水八幡宮を中心に、歴史、文化遺産の多いまちである。この一年間、教員と学生ともに、現地調査をおこない、この多様な文化遺産を以下のかたちで記録、情報化した。 ① 村の鎮守である各地の神社の常夜灯、鳥居の銘文や寸法を調査し、神社と地域の歴史を考察 ② 市内の家に所蔵されていた古文書を調査し目録を作成、江戸時代の八幡の歴史が判明 ③ 石清水八幡宮と男山が描かれた江戸時代から明治時代の地図や、当時のガイドブックを比較して、明治初期の廃仏毀釈など歴史の変遷を解明 ④ 橋本駅から八幡市駅間の旧大坂街道を踏査し、数多くの道標や近代建築、景観などの貴重な文化遺産の確認 ⑤ 京都府の行政文書「村誌」を翻刻し、明治前期の八幡各地（大字単位）の生活、経済、寺社の貞享を明らかにし、当時の地図に反映させ、視覚的に当時の状況を再現した。			
<b>【研究活動の成果】</b>			
上記の研究成果を掲載した『八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図 ー地域文化遺産の情報化ー』を刊行した。内容は以下の5部編成とした。 ①「地域文化遺産の情報化」ー石清水八幡宮にあった日露戦争の戦利品である大砲の設置経緯、松花堂が現在まで守られてきた歴史を紹介。 ②「古文書の調査方法」ー実際におこなった蔵出しから現状記録、目録作成など、文書調査の方法をわかりやすく解説。 ③「聞き取りの情報化」ー八幡宮の民芸品であった紙鯉とかんざし、宇治の幻の菓子喜撰糖の再現などを、聞き取りによって記録。 ④「絵図の情報化」ー石清水八幡宮の神領絵図のトレース図、八幡宮案内図の幕末から明治の変遷を比較した図や、当時のガイドブックの索引などを掲載。 ⑤「文書の情報化」ー八幡地域 13 か村の明治前期の「村誌」を翻刻し、当時の人口、田畑数、物産、寺社、地名など貴重な地域の情報を掲載、そのデータをもとに、地図化して当時の状況を再現した。			
<b>【研究成果の還元】</b>			
H21/8/18-20 古文書調査の市民への開放（京都新聞掲載） H22/3/31『八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図 ー地域文化遺産の情報化ー』刊行、（府下の図書館で閲覧可能（予定））			
<b>【お問い合わせ先】</b> 文学部歴史学科 准教授：東 昇 Tel: 075-703-5271 E-mail: n-higashi@kpu.ac.jp			